



英国に 再び学ぶ

ピンカラーシャツが
トレードマークの
慶應義塾大学名誉教授
安東伸介氏。
英国ケンブリッジ大学訪問教授も
務めたことのある氏は、
中世英文学を専門として、
長く英国を見つめてきた。
話題の書『性とスーツ』の翻訳者で
英国ジェントルマンを研究する
中野香織さんが
大先輩に聞く「英国のスタイル」。
英国は我々に何を教えてくれるか。

Photographs: Tanaka Daizo

英国のジェントリイ階級には スタイルと風格がある

中野香織

東京大学教養学部非常勤講師
(なかの・かおり)1962年生まれ。
東京大学文学部および教養学部卒業。
東京大学大学院修了。
1989年、94年英国ケンブリッジ
大学客員研究員。訳書にアン・
ホランダー著「性とスーツ」(白水社)



安東伸介

慶應義塾大学名誉教授、山脇短大
英文科主任(あんどう・しんすけ)
1932年東京生まれ。BCJA (British
Council Japan Association) 会長、
文部省大学設置基準委員会委員、
日本英文学会理事、日本シエイ
クスピア協会常任委員などを歴任

も英国製で、父の世代にはそんな人たちが非常に多かったと思います。
中野 しかしジェントルマンと称される人には、奇抜な格好を好む人も多く見られます。
安東 そのようですね。昔のジェントリイの階級は、服装で階級が歴然とわかりました。今日では服装以外に、「階級とい

源にさかのぼると、ジェントルマンの定義は、エンティルな人とは階級や男女を問わず気品や品位を持った人のこととて、人間はジェントルに行動すべきものという考えは、ギリシャにまで行きます。中世になると、ジェントルマンの根源は、イエス・キリストにあると考えました。中世からルネサンスにかけてのこの意味でのジェントルマンの概念には、富や名声は関係ありません。
中野 日本人は英国ジェントルマンに憧れる傾向が強いですね。
安東 日英同盟なども関係してくるのでしょうが、私の父など典型的でした。元来日本的な人物でしたが、スーツの生地もステッキ

中野香織 ジェントルマンの定義に関しては、今のイギリス人に聞いても、はっきりと答えられる人がいませんね。
安東伸介 ジェントルマンという言葉はイギリスから世界中へ輸出されましたが2つの意味を持っています。まず、階級としてのジェントルマンは、貴族の位に次ぐ大地主の富裕階級ですが、もっと古くジェントルマンの語

うものは、舌の上に刻印を押されている」つまり言葉が階級的に違うのですね。
中野 映画の「マイフェアレディ」の世界ですね。
安東 本来、ジェントリイの階級は、服装などにこそお金をかけなくてもスタイルがあるし風格もあった。今の日本には階級制度はありませんが、人間というものは外にあらわれたところで判断するしかない。陶器を評するのと同じで、重い、軽い、風格があるというような形容詞は、ことごとく人間に当てはまりません。美醜にかかわらず、人間は顔で判断される。英国のジェントリイ階級は、おしゃれの部分でもそれを意識しています。が、やはり顔が違うのです。
中野 一見しておしゃれとわかることはジェントルマンシップに反することです。安東 そういう面もありますね。男にとって不自然に目立つことはヤボでしょう。
中野 ロンドンのサヴィルローで背広を作る場合も、店側はあくまで客の命令で作っているんだという意識があります。
安東 私も友人の古典学者の紹介で作ったことがあります。スーツだと仮縫いが3度、シャツでも最初2回仮縫いがある。
中野 若い人たちに何か服装上のアドヴァイスはありますか。
安東 一つだけ言えば、シャツにもっと気を使うべきだと思います。最近、若い人たちが結婚式などにタキシードを着ますが、たいていシャツがだめです。もっとシャツに金をかけたほうがいい。シャツといえば、十何年前にロンドンのタインブル&アッサーで注文したとき、最初6着作られた。オクスブリッジの入試みたいなものか聞いた。「イエス、サー」と言うので、それなら奨学金をくれとこちらが言ったら、大笑いしていました。この話、今でも、店員が覚えていますよ。
中野 そうやって店のほうでも客を選ぶ

中野 日本人は英国ジェントルマンに憧れる傾向が強いですね。
安東 日英同盟なども関係してくるのでしょうが、私の父など典型的でした。元来日本的な人物でしたが、スーツの生地もステッキ

中野香織 ジェントルマンの定義に関しては、今のイギリス人に聞いても、はっきりと答えられる人がいませんね。
安東伸介 ジェントルマンという言葉はイギリスから世界中へ輸出されましたが2つの意味を持っています。まず、階級としてのジェントルマンは、貴族の位に次ぐ大地主の富裕階級ですが、もっと古くジェントルマンの語

わけてですね。
安東 1962年に初めて英国に留学しましたが、オックスフォードでもケンブリッジでも紳士教育というのがカリキュラムにあるわけではないのですが、伝統というものは脈々と生きていました。今ではデイナージャケットになっていますが、1920年代の入学時のデイナーには燕尾服を着用していましたね。
中野 イギリスのパブリックスクールは日本のエリート教育と違って、あまり実学を重視しない傾向があると聞きます。
安東 もちろん実学を学ぶ場ではあります。スポーツを通じてフェアプレイ精神を学び、忍耐を教える。それが結果的にジェントルマンシップに通じますが、つまり「嘘をつかない、卑劣なことをしない」。日本の武士道と似ている。いわば士道ですね。そういう伝統と誇りのある国に、サッカーのフリーガンが出てくるとは、昔では考えられませんでした。
安東 英国の政治家にもジェントルマン精神は脈々と流れていて根本のところでは決して嘘はつかぬはず。それに比べると、政治家が嘲笑と侮蔑の対象ではないのは、日本という国にとって悲劇です。
中野 イギリス的な発想というのは日本とどこが異なりますか。
安東 イギリス人には「日本的な」人情や妥協というものがない。アメリカ人は会ってすぐにファーストネームで呼びますが(笑)、イギリス人は違いますね。
中野 距離感の取り方が独特ですね。イギリスという国は日本のと比較論がしやすい国だと思いますがいかがでしょう。
安東 日本には明治時代から「イギリス鼻」の鼻という伝統があります。日本人にとって懐かしい気持ちを起こさせる国なのかもしれません。
中野 どうもありがとうございました。

中野 日本人は英国ジェントルマンに憧れる傾向が強いですね。
安東 日英同盟なども関係してくるのでしょうが、私の父など典型的でした。元来日本的な人物でしたが、スーツの生地もステッキ

中野香織 ジェントルマンの定義に関しては、今のイギリス人に聞いても、はっきりと答えられる人がいませんね。
安東伸介 ジェントルマンという言葉はイギリスから世界中へ輸出されましたが2つの意味を持っています。まず、階級としてのジェントルマンは、貴族の位に次ぐ大地主の富裕階級ですが、もっと古くジェントルマンの語